

# 戸田市教育フェスティバル開催

## WEB会議による遠隔研修

令和3年1月8日(金)、戸田市役所にて「戸田市教育フェスティバル」を開催し、学校の教職員がWEB会議システムで配信される映像を視聴するという形式で研修を行いました。

今年度は、「これからの時代に向けた個に応じた学びの在り方」を共通テーマに、早稲田大学准教授 松岡 亮二 氏と、Crimson Global Academy 日本代表 松田 悠介 氏をお招きしそれぞれ異なる領域の第一線のお二人に御講演いただきました。



早稲田大学 准教授  
松岡 亮二 氏

### ◆ 教育格差社会のなかの学校現場

教育社会学は、規範的な議論の前提となる実態把握を重視する学問分野であり、私は大規模データを活用して研究を進めている。教育格差というと近年生じたものという印象を持たれるが、データを紐解くと戦後の日本は長きにわたって、生まれ（出身地域、階層、性別など）が将来の職業や収入を一定程度規定する教育格差社会であったといえる。日本社会では、小学校1年生の段階で既に一定程度の教育格差が存在しており、その格差が概ね同程度に中学校、高校卒業時まで引き継がれる。この状況は、一見すると学校教育が格差縮小機能を果たしていないようにも見えるが、学年が上がるにつれて格差が拡大するのを学校教育が防いでいる点も、見落とすことはできない。なお、海外を見渡しても学校教育が目覚ましい格差縮小機能を果たしている国は見当たらず、これは人類共通の課題であるともいえる。が、日本の学校はその理想を体現する可能性を秘めていると、私は考えている。現在進められているICTの活用も、教育活動の効率を高める上でも、実態把握に資するデータを蓄積する上でも有益であり、学校の格差縮小機能を高める第一歩になりうる。これからも、学校現場の先生方ともコミュニケーションをとり、教育社会学の知見を学校教育の現場にいかにか還元するかに関心を寄せながら、研究に取り組んでいきたい。



Crimson Global Academy  
日本代表  
松田 悠介 氏

### ◆ AI 社会と教育

学校の先生方は、感染症への対応もあり多忙の中とは思いますが「自分はなぜ教員になったのか」をぜひ振り返り、同僚と共有する機会を持っていただきたい。私の場合には、中学生の頃に様々な困難を抱えていた時に寄り添ってくれた恩師に救われた経験が、教壇に立つ原点だった。その恩師に感謝を伝えた際にかけてくれた「私に恩返しするよりも、君も将来、子供と向き合える大人になってほしい」という言葉が原動力となり、今も教育のフィールドで活動を続けている。AIによって少くない職業が代替されると言われているが、教員の仕事の核となる他者への共感や、課題発見といった営みはAIには行うことができない。

勉強の苦手な子供だった私も、恩師の寄り添いに支えられて成長し、留学も契機となって人生が大きく変わった。AIと共生する社会を生きていく子供たち一人一人が、今の姿からは想像もつかないような可能性を秘めていることを、先生方には折に触れて思いおこしていただければと思う。そして先生方には、ビジョンを更新し続ける、優先順位をつけて「やらないこと」も決める、外部資源の活用など新たなやり方も検討するという3点も意識しながら、日々子供たちと向き合っていたいただきたい。